

## 平成31年度 年間授業計画

- 1 学年・科目・単位数  
第3学年 数学B 選択：4単位
- 2 担当教員
- 3 教科・科目のねらい  
数Ⅰ、数Ⅱの学習内容を再度確認し、より高度な数学に取り組める力を年間を通じて育成する。  
また、工業科目に対応できる数学力の育成に努める。
- 4 年間授業計画

学期	単元（授業内容／時間）	重点項目	評価の観点
1	ベクトル ○平面上のベクトル ○ベクトルの成分と内積 (16～28時間)	○ベクトルの概念を理解させる。 ○ベクトルの成分と内積の計算の仕方を理解させる。	○ベクトルの概念の理解と内積の計算の正確さ。
	○位置ベクトルと図形 空間のベクトル ○空間のベクトル ○ベクトルの成分と内積 ○位置ベクトル ○空間図形への応用 (20～28時間)	○位置ベクトルと図形について考えさせる。 ○空間ベクトルを理解させる ○ベクトルの成分と内積の計算の仕方を理解させる ○空間図形への応用	○ベクトルの図形的考え。 ○空間ベクトルの考え方。
2	数列 ○数列と一般項 ○等差数列とその和 ○等比数列とその和 いろいろな数列 ○和を表す記号 (20～28時間)	○数列の概念を理解させる。 ○等差数列の一般項とその和の求め方を理解させる。 ○等比数列の一般項とその和の求め方を理解させる。 ○ $\Sigma$ 記号の意味とその計算の仕方を理解させる。	○数列とその一般項の求め方 ○等差数列とその和の計算の仕方。 ○等比数列とその和の計算の仕方。 ○ $\Sigma$ 記号の使い方
	○階差数列 漸化式と数学的帰納法 ○漸化式と数列 ○数学的帰納法 (20～28時間)	○階差数列や漸化式の考え方を理解させる。 ○数学的帰納法を用いた証明を出来るようにする。	○階差数列や漸化式を用いた数列の求め方。 ○数学的帰納法を用いた証明の仕方。
3	○演習 (20～28時間)	○ベクトル・数列の確認	○全般の演習

- 5 使用教科書・副教材他  
最新数学B（数研出版）・教科書傍用3ROUND 数学Ⅱ+B（数研出版）

- 6 評価方法・観点

各定期テスト（100点×5回）・授業態度（20点×5回）・提出物の提出状況（10点×5回）・出席状況を総合的に点数化し、度数分布に基づき5段階評価をする。

※なお、上記は予定であり、行事等により一部変更になることがある。